



自然観察

No.108
2013.11月

目次

- ・北海道を去るにあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・自然観察指導員旭川研修会報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ・指導員研修「森を読む 体で感じる」・・・・・・・・・・・・ 6
- ・自然観察会を開催しましょう・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ・海辺で出会う漂着物 3・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ・ウォッチングレポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- ・北海道自然観察指導員フォローアップ研修会と忘年会のお知らせ・・・・・・・・ 11
- ・救急救命講習会 2014・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- ・フィールドニュース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ・参加者の声・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- ・ウォッチングプラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- ・会計からのお願い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- ・事務局だより・連絡先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16



採ったイチイの実などを一時、樹皮の隙間などに貯える習性を持つヤマガラ
隠した場所は近くにある何らかの目印で記憶しているらしい（野幌森林公園 11月）

北海道を去るにあたって

北海道自然観察協議会副会長 酒井 健司

66歳になりました。19歳の時に初めて来道しそれから47年が経ちました。大学卒業後フィジーの遠洋まぐろ漁業基地で働き、4年後に再び北海道に戻ってきたので、北海道生活は正味43年になります。フィジーにいた時は雪が降っている夢をよく見ました。それは鉄道官舎の、石炭の燃えカスで穴埋めされた凸凹道の、街燈の電球に映し出されて舞い落ちる雪であったり、植物園の脇の道路の水銀灯に照らされて紫色にかすんだ雪でした。ふと目覚めると天井にヤモリが張り付いており、がっかりしたことが思い出されます。

卒業する時に単位が足りず、二度と津軽海峡を渡らないという約束でロシア語の先生に泣きつきなんとか卒業できましたが、舌の根も乾かないうちに北海道に戻ってきました。



フィジー、レブカの遠景

北海道は遠い存在でした。小学生のころ近所の友達が北海道に引っ越すと聞きなんとなく興味をもちました。高校の時に友人が道南を旅行しその時の話を興味深く聞きましたが、自分がそこに住むなどということは夢にも思いませんでした。浪人の時にテレビで三

浦綾子作の「氷点」を見て、北海道の風景に憧れました。主人公の「陽子」役の「内藤洋子」が実家のすぐ近くの女学校に通っていましたが、これは関係ありません。それから北大を受験することを真剣に考えるようになり、大志を抱いて来道しました。上野から青森まで汽車にゆられ12時間、青森から青函連絡船で函館に、そこから札幌までまた汽車の長旅。森や原野など人家がないかまばらな風景ばかりが過ぎて行き、この先に本当に札幌という都会があるのか不安になったことを思い出します。それから苦節（屈折との声もある）40年以上この地で一生懸命に生きてきました。



内藤洋子（喜多嶋舞の母）が通っていた北鎌倉女子学園

フィジーから帰国し、再来道し、たくぎん総研の前身のコンサルタント会社に就職したのは30歳の時でした。漁業や水生生物の担当者として採用されたのですが、マグロやカツオなどのことを少し知っただけで、道内の淡水魚のことや、水生昆虫のことなどは全くの素人でした。それからは苦闘の連続でしたが、淡水魚、水生昆虫、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類、植物と少しずつレパートリーを広げて行き、

今にして思えば恥ずかしい限りなのですが、40歳になるころには博物学的環境調査のプロを自認するようになりケニアにまで足を延ばしました。



刺し網による魚類調査、サクラマスが捕れました



サバンナを浸食して流れる川（ケニアのマサイマラ国立公園）、熱気球から写す



せせらぎスクール（川の中をのぞく子供）

30代のいつごろかは覚えていないの

ですが、さそわれて自然観察指導員の講習（栗山）を受け、北海道自然観察協議会のメンバーに加えさせていただきました。故柳沢先生などと行動を共にし、滝野のつどいにも参加しました。

北海道環境アドバイザーに任命されてからは道内各地で「せせらぎスクール」の講師をするようになり、幼児から大人、果ては発展途上国の研修員（JICA）にまで河川環境や河川生物の講習をするようになりました。

異分野の友人・知人と支笏湖の調査研究をほぼ20年続け、成果は報告書「支笏湖の人と自然」にとりまとめました。神秘の湖も人間のあさましい欲望に翻弄されてきたことが調査をつうじてよく理解できました。人間と関わりを持たない自然などこの日本にはないと痛感しました。



せせらぎスクール（JICA 水道研修員達と）

36歳の時に西岡水源地直下の月寒川改修反対運動に参加しました。札幌市の河川課と何度も交渉を重ねました。新聞やNHKテレビの番組に取り上げられるなど、マスコミの援護もありついに改修撤回にこぎつけることができました。たった300mのことですが、コシボソヤンマ幼虫など多くの水生生物の生息環境を守ることができました。

行政側は森林総研の土地の一部を河川区域に編入することで計算上洪水を収容できる河道を確保したそうですが、

あれから30年川から水があふれることはなく改めて改修工事は不要だったことを思い返しています。

バブルが崩壊し拓銀が倒産したあとは、職場の仲間と野生生物総合研究所を立ち上げ代表になりました。仕事はますます忙しくなり、56歳の時に胃癌にかかり胃を3分の2ほど切除されましたが、なんとか60歳の定年を向かえ代表を降りることができました。



西岡水源池直下の月寒川、この地点から下流約100mのところまでが改修される計画であった

半年ほど遊んだ後新設された札幌国際大学観光経済学科の教員に誘われその後4年間教壇に立ち、学生たちに野生生物、環境問題、北海道の自然、世界遺産、世界地理などの講義をしました。また札幌科学技術専門学校、札幌市立高等専門学校、北海道工業大学、酪農学園大学、東海大学などで非常勤講師もしてきました。



紅葉の美しい札幌国際大学構内

退職後は好きなことだけに専念する

自然観察 108号(4)

人生設計を模索していた時に、自然観察協議会から講演の依頼がきました。そのあと横山会長が大学に見えられ理事並びに副会長就任を依頼されました。幽霊会員がいきなり理事や副会長になることには抵抗があり固辞しましたが、説得され副会長に就任しました。

会議や指導員講習会(恵庭)の手伝いなど、大した仕事もできませんでしたが、札幌における仕事がほぼ終了し、郷愁にかられることもあり、思い切って実家に帰ることにしました。

誠に申し訳ございませんが副会長を辞任させていただきたく思います。わがままをお許し下さい。

今、住み慣れた家の解体と引っ越しの準備に追われています。処分がすんだら引っ越しする予定です。かつてフィジーにいた時のように再び雪の夢を見るかもしれません。酷暑で参るかもしれません。そんな時は北海道に一時帰省しようと考えています。北海道自然観察協議会の活動はできなくなりますが、道外会員として仲間にしていただければうれしいです。

私の故郷は北鎌倉です。子供のころは近くの田や小川にホトケドジョウやメダカがいました。清水が湧く岩の隙間にはサワガニもいました。彼らは絶滅させられたようですが、もし探し出せたら保全したいと思っています。自然観察協議会の方々には本当にお世話になりました。心よりお礼申し上げます。鎌倉見物の際には案内させていただきますので遠慮なく声をかけて下さい。

(Eメール：sakai85@gmail.com)



自然観察指導員旭川研修会報告 開催日 2013年10月19日

自然観察指導員 山本 牧

旭川チームは毎年1回、秋に指導員研修を行っています。これまでもガイド技術研修、コウモリ観察、ネイチャーゲーム実習、樹木講座などを開いてきました。

今年は10月19日、旭川市東鷹栖の突哨山(とっしょうざん)で秋の植物観察と間伐体験がテーマでした。毎回のように来ていただいている横山会長は風邪のため残念ながら欠席でしたが、帯広から中村修一さんら5人、地元から7人の計12人が参加し、にぎやかでした。恒例の泊まり込み懇親会も会話が弾み、翌朝には野鳥の捕獲調査体験もできました。

突哨山は平地に突き出した丘で、以前は農家が薪採取や放牧に使っていました。ゴルフ場用地として一時は開発会社の所有になりましたが、自然保護運動による計画中断を経て、旭川市と比布町が買い取り、現在のような自然公園(都市緑地)となっています。

市民公募の運営協議会が保護と利用の方針や具体策を決め、指定管理者のNPOが実行する形です。遊歩道も必要性の検討や環境調査を経て整備されてきました。

今回は新しい「谷渡りコース」を歩きました。名前の通り、山の中腹の沢を横断して歩くので、植生が多彩です。目がさめるような黄葉の中、キノコやシダ類、樹木の冬芽や落ち葉、昆虫など、参加者の得意分野の解説に聞き入りながらゆっくり歩きました。お互いに教え合い、観察眼に学べるところが指導員研修のいいところです。

スキー場廃止から30年ほどで回復した樹林に驚き、冬芽の見分け方、幹に生えるオシャクジデンダの発見が人気でした。明るい広葉樹林で、晴れやかな秋の日の弁当タイムを楽しみました。

午後は30年生トドマツ林の間伐体験です。なぜ間伐が必要なのか、間伐で森はどう変わるのか、木の寿命や特性はどうか、などの解説をきいた後、2人1組で切る木を選びます。この森は、林業目的ではなく、生物多様性の高い針広混交林に戻すことが目標なので、自生した広葉樹や将来の核になる元気なトドマツを残し、それと競合する木を伐採対象に選びます。



手ノコでトドマツを伐り倒す体験

迷いながら選び、その理由を1組ずつ発表します。みんなが納得する選択もあれば、ユニークな視点もあり、あらためて森の複雑さや森づくりの難しさに気づきます。

最初の1本を切る前に、樹高トトカルチョをしました。木の高さを当てるのですが、縦の長さを推測するのは難しい。優勝者は誤差50センチ、最大で5メートル以上の誤差がありました。

伐倒は手ノコです。倒す方向に向けて「受け口」という三角の開口部をつくります。これを正確にやらないと、目指す方向に倒れません。交代でノコギリを動かし、周りの人が角度をチェックします。親切なのか、うるさいのか…。次は「追い口」といって、反対側から水平に切込み、最後はゆっくりと木が倒れます。



斃れたトドマツを前に記念写真

木が混んでいるので、どうしても隣の木に引っ掛かります。根元にロープをかけ、数人で引くと、ドドドッと地響きを立てて倒れこみます。



突硝山の山歩き



足環をつけたアカゲラを放す直前

上を見るとぼっかりと青空。そう、この空の光が、残った木を太らせ、地面の稚樹を育てるのです。切り株の年輪を調べ、その幅の違いから、この木が順調に伸びた時期や、隣りと競合した時期を考えました。最後は枝を切り落とし、短い丸太に切断して運びます。生木は重く、倒すより運ぶほうが大変でした。

立っている木を切るのは初めて、ヘルメットをかぶるのも初体験、という人もいます。「こんな太い木がノコギリで倒せるなんて」「木が倒れる音が心に響いた」「針葉樹の香りがすごい」「光が差し込んで、森が変わるという実感がした」。いろんな感想がありました。

山を下り、近くの NPO もりねっと作業所へ。恒例の泊り込み懇親会です。今回のメニューは鍋もの。薪ストーブで焼いたイモは最高です。美瑛の堀内さんは自慢の果実酒を持ってきてくれました。山での経験談や森の食べ物、動物との遭遇、いろんな話が夜更けまで続きました。

翌朝は幻想的な霧。裏山で野鳥の会支部長でもある柳田和美さんがカスミ網をセットし、アオジ、アカゲラなどがかかりました。小鳥の持ち方を教わり、心臓のドキドキを感じながら、足環をつけ、「またね」と放しました。

突硝山をフィールドにした観察会は3年間続き、今年でいったん終了。来年からは動物園に近い旭山で観察会活動を行う予定です。

指導員研修「森を読む 体で感じる」に参加して期日 10月19日(土) 晴れ 場所:突硝山 10時~16時半 参加者:12名~「秋の森を読む」・「突硝山口」から「谷渡りコース」を歩く

秋の植物、木、虫、などの説明とともに、森の成り立ちや回復、変化などの話。既に木々など紅葉になっていましたが、晴天の光に照らされた木々の様子がきれいでした。コクワや赤い実、キノコ、セミの抜け殻がたくさん木にくっついていたり、印象的でした。昼食は、森の平らな場所に腰を下ろして皆さんで話しながら食べました。昼食後~「間伐体験」・トドマツ林で2人1組でどの木を伐倒するか決め、各自決めた理由を皆に説明。大事なのは、どの木を残すかで、そのために太陽の光を中心に考えるとどの木を切るかである。実際に伐倒したのは2本。まず、ノコギリで切り口を交代しながら切ることから始まり、ロープをかけて木を数人で動かし倒す。木の高さは、14メートル位、もう一本はそれ以上あった。最後は、枝払いをするが、クリスマスツリーに使える枝が沢山あった。皆さん、良い体験をしたと思います。

研修会の後は、近くの「八線小屋」で夕食・懇親会を帯広のお二人とともに楽しいひとときを過ごしました。以上がおおよその様子です。

旭川市 原部 剛

自然観察会を開催しましょう

北海道自然観察協議会会長 横山武彦

はじめに

北海道自然観察協議会は、「自然に親しみ、学ぶ」をモットーに、自然観察会をとおして多くの人々と語り、自然に親しみ、かけがえのない自然をよりよい姿で子孫へ残そうと活動として、今年度、約 50 回の自然観察会を開催しています。多くの会員諸兄姉には、この観察会に主催者として又は協力者として参加いただいておりますが、これから自分もやってみたくと意欲を持たれている会員もいることと思います。

観察会にはいろいろな形や進め方があります。これから取り組もうとされる皆さんの参考にしていただきたく、企画から実施までにはどのような流れで進めるとよいか、整理してみたいと思います。

もともと、観察会を一人でできるだろうか不安なときは、まず数多くの観察会に参加してみることをお勧めします。また、既に観察会の開催や実施に協力されている会員諸兄姉は、これから取り組もうとされる会員へのサポートをお願いしたいと思います。

1. 観察会のねらいとフィールド

どんな観察会をしたいと思っておりますか。自然にふれて癒されるようなもの。動植物の花や実を身近に感じてもらうもの。季節を感じるもの。生物の多様性、命のつながり、地史などをメインにするものなど、そのねらいにより観察するフィールドをどこにするかが決まるでしょう。

観察するコースは、できるだけなじみのあるところ、季節をとおして歩いているところや同じ時期でも何回か通ったところは自分なりの視点での観察ポイントもできていてやりやすいものです。仲間を募って一緒に歩くと自分とは違う見方もあることに気づき参考となります。観察会に来てもらいたい人はどんな人ですか。体力や興味関心の持ち方にも合わせた観察会にしたいものです。

2. 観察会の企画と広報

当協議会の観察会として実施するとき、その流れは次のようになります。

<まんまる新聞への掲載記事>

秋の野幌の森を歩く 子ども連れ歓迎の観察会

9月15日、野幌森林公園

秋の野幌森林公園を歩く自然観察会が9月15日(日)午前10時～12時半、子ども連れ歓迎で開催される。参加費は100円(保険料など)、大沢口駐車場に集合。事前申込不要。さわやかな秋風のなか、冬や翌春の準備を始めている森を見ながらエゾユズリハコース～大沢コースを歩きます。

問い合わせ/電話 387-4960 横山

観察会の実施予定が1月下旬までに観察部長に報告され、まとめられた全体の年間予定表は5月の総会までに会員に配布されます。この表をもとに、観察協議会のホームページ上に各月の観察会の予定が掲載され、ウォッチングガイドなどにも要旨が掲載されます。

観察部長宛に報告する実施予定の観察会についての内容は、①開催予定日、②テーマ、③観察地、④集合場所・時刻・注意事項、⑤交通機関・連絡先です。具体的には今年度の予定表を参考にしたいと思っております。

また、会員用の予定表には下見の日程も記載しますので、実施日が決まっている時は一緒に報告いただきたいと思います。下見は、開催当日以上に、会員相互の学び合う場となります。予定表に下見の記載がない時でも、連絡先会員に下見を実施するか聞いて参加することも可能です。

観察会開催についての広報・宣伝には、当協議会ホームページへの掲載や観察会開催時に参加者に予定表を渡すほか、博物館や環境関係ネットワークのチラシ置き場に予定表を置かせてもらい、周知を図っています。また、地域の新聞や情報紙、行政の

広報紙に依頼し案内記事として掲載してもらおうとより効果的な広報となり、多くの人に周知されることとなります。

3. 会員相互の知識や経験の共有で

観察会は一人ではなかなかできるものではありません。会員の持つ色々な知識や経験を共有する中で協力し合うと、不可能も

可能になります。観察会の参加者は、動植物の正確な種名や生物的特徴を聞かなくとも、森を散策して自然にふれて癒しを感じたり、生態系の生物の相互の関わりや命のつながりの不思議さに気付いてもらうことなどはできます。

自分なりの自然観察会を演出してみませんか。

海辺で出会う漂着物 3 暖流に乗ってくるタコ

いしかり砂丘の風資料館学芸員 志賀 健司

石狩浜を歩いていると、ごくまれにココヤシの漂着に出会うことがあります。ココヤシ果実。いわゆるヤシの実、ヤシの木の実です。でも、ヤシの木って、石狩浜に生えてる？

ココヤシは東南アジア、ハワイ、中米など、熱帯地方の海岸に生育します。そこで実がポチャンと海に落ち、暖流に乗って、どんぶらこ、どんぶらことはるばる北海道まで運ばれてきたのです。今回は、そのように暖流が運んでくる漂着物から、その代表である“貝殻を持つタコ”アオイガイと、その他のタコ・イカの仲間をいくつか紹介します。

■暖流系漂着物とは

熱帯～温帯の海、もしくはその海岸に生息（生育）する生物等が、暖流によって本来の分布範囲を越えた高緯度地域に運ばれ、海岸に漂着したものを“暖流系漂着物”と呼びます。

代表はココヤシ、アオイガイなどです。日本周辺では、太平洋側を北上する黒潮、日本海側を北上する対馬暖流によって、南の海から北へ北へと流れてきます。そのほか、後に紹介するコウイカやムラサキダコ、そしてギンクラゲ、エチゼンクラゲ等が挙げられます。

また、生物だけでなく、日本海南部や東シナ海に面した国、つまり韓国、中国（あるいは台湾）に起源を持つ人工物（ペット

ボトル、浮き等）も、対馬暖流によって運ばれるので、暖流系漂着物の1種とも言えるでしょう。

暖流系漂着物は、北海道の日本海側の海岸では、秋から冬の初めにかけて見られます。反対に、春から夏にかけてはまず見つかりません。その理由は、海は暖まりにくく冷めにくいいため、秋になっても海水温はまだ高く暖流の影響が強い状態の中で、大気は一足先に冬に入り、北西風が吹く日が増えてくるため、暖流が南から運んできた漂流物が日本海側の海岸に吹き寄せられるからです。

■暖流に運ばれてくるタコ

(1) アオイガイ

カイダコとも呼ばれるタコで、その名のとおり、貝殻を持つタコです。メスだけが産卵・孵化のための石灰質の殻を作り、自分もその中に入って、海面付近を浮遊して生活しています。世界中の熱帯～温帯の海に分布しています。オスは殻を作らず、体長は1～2cm、メスの10分の1ほどの大きさしかありません。

英語では paper nautilus、“紙でできたオウムガイ”と呼ばれているように、アオイガイの殻は真っ白で紙のように薄く、ちょっと力を入れて持つとパキッと割れてしまうほどです。その美しさ、繊細さから、ビーチコーマー（漂着物愛好家）の憧れの的です。

漂着したアオイガイを見つける時、ほとんどの場合は殻だけですが、まれに中身のタコが入った状態で見つかることもあります。ごくまれには、タコがまだ生きて動いていることも。そんな新鮮な個体を持ち帰り、食べてみる人もいますが、あまり良い評判は聞きません。無駄に食べるのはやめたほうがいいでしょう。



アオイガイ まれにタコが入ったまま見つかることも

タコが貝殻を持つ？ と意外に思う方もいるかもしれませんが、しかし、分類や進化を考えてみると、ちっとも不思議ではないのです。タコやイカは、巻貝や二枚貝などとともに「軟体動物門」というグループを構成しているのです。オウムガイや絶滅動物のアンモナイトも、殻を持っていますがタコ・イカの仲間です。タコ・イカは本来は貝殻を持っていた、と考えるほうが正しいのです。

太平洋の暖かい海から日本海に入り込み、対馬暖流の流れに乗ってしまったアオイガイは、どんどん北上し、水温が下がってくる秋から冬にかけて、日本海沿いの海岸に流れ着きます。北陸地方、山陰地方では、年によっては大量に漂着することもあります。

地域によって「アオイガイが来る年は豪雪」とか、反対に「アオイガイが多いと暖冬」などと言われたりすることもあるようです。

かつては北海道で発見されることはあま

りなかったのですが、2005年以降、石狩湾沿岸でも漂着数が増えています。特に2010年、2012年には、大量漂着が見られました。

(2) タコブネ

アオイガイの仲間に、タコブネ（フネダコ）があります。メスが殻を持っているのは同じですが、アオイガイよりも少し小さく、殻は厚めで突起が丸く、淡い褐色をしています。本州でも漂着が見られるのは珍しく、北海道での漂着記録となると、道南地方などでほんの3例が知られていくくらいでした。しかし2010年、初めて石狩湾内で漂着が記録され、さらに2012年には石狩浜周辺だけで4個体も発見されました。



タコブネ (左) とアオイガイ

(3) ムラサキダコ

殻を持っていませんが、やはり浮遊性で熱帯～温帯の海に生息するタコが、ムラサ



漂着したムラサキダコ

キダコです。下面は白色ですが、上面（背中側）は紫色をしていることから、この名前が付いています。石狩浜周辺では、この7～8年の間に6件しか漂着記録がありません。しかし2013年の秋は、オホーツク海側や石狩で定置網にたくさんかかったそうです。

（4）コウイカ

イカの中には、体内に殻を持っているものがあります。コウイカの仲間です。胴体の中にあるサーフボードのような形の石灰質の「甲」が、それです。この甲は薄い板が無数に重なったウエハースのような構造のため、軽く、水に浮きます。コウイカが捕食者に食べられたり死んだりしても、殻だけは海流に流され、どこかに漂着するのです。コウイカの仲間の分布範囲は北海道南西部よりも南なので、これも暖流系漂着物になります。ビーチコーマーに大人気のアオイガイと比べると、こちらは不人気です…。



コウイカの甲 種によって形状が大きく違う

■おわりに

こんな暖流系漂着物ですが、珍しいもの、きれいなものを見つくと、喜んでいるだけではありません。漂着の数や時期の変化は、海洋環境や気候の変動を知るためのヒントを与えてくれる重要なデータとなるのです。もしもアオイガイやタコブネを見つけたら、採集日、場所、殻の全長などをお知らせください！

ウオッチングレポート



旭川市 秋の突硝山を訪ねよう 2013/9/28

谷渡りルートから木漏れ日の路へ、突硝山の地形、樹木の分布などの歴史についても話しながらの観察会。

まだ紅葉には少し早く、ツリバナ、コマユミ、ガマズミなどの赤い実が森に一層映え、またハウノキの実もたくさん落ちていました。

数種のキノコ、シダ、とくにオシヤクジデンド、エゾフユノハナワラビなど。その

他実をつけているものツルリンドウ、ホウチャクソウ、ユキザサ、コウライテンナンショウ、オオウバユリ、マイヅルソウ、ルイヨウボタンなど。

衣服などにくっつくノブキ、キンミズヒキ、ウマノミツバ、ヌスビトハギ、オオダイコンソウ、ヤブニンジンなどがあり、秋ならではの観察会になりました。

（松田 章子）

札幌市北区 屯田防風林観察会 2011/10/21

秋の紅葉と木の実

必ずしも悪天候のためばかりとは思わないが、約1キロの往復行程で、小鳥の囀りが

皆無。樹木で一番目立ったのは、神樹の黄褐色、房状のねじれた翼果の集合、ナナカマドの赤色、散房花序の実で、これらは遠くからでも鮮明に映る。その他、鈴懸の木

の集合果、松類の球果、地面に散乱しているヤチダモの翼果など印象に残った。

草本では大花ウドの散形花序、大姥百合の翼果のぎっしりつまった朔果など、共に枯れた状態で立っていた。

この防風林、意外に楓科が少ない。紅葉しているのはツタなど。

神無月、今年もまた、雪虫の飛び交う季節になったのだなあ…。

屯田防風林近隣の人も交えた、楽しい観察会であった。

(澤田 八郎)

北海道自然観察指導員フォローアップ研修会と忘年会のお知らせ

北海道自然観察協議会では、新指導員に対するフォローアップを図るとともに、併せて一般指導員に対するレベルアップを兼ねた標記フォローアップ研修会を下記により開催します。新指導員はもちろん、一般指導員の方々もふるってご参加願います。

研修会

- 1 開催日時
平成 25 年 11 月 30 日(土) 13:00~16:00
- 2 開催場所
かでの 2・7 1010 号室(札幌市中央区北 2 条西 7 丁目)
- 3 参加費
500 円
- 4 研修内容
 - 1) 「誰でもできる観察会 不思議とすごいを感じることから始まる自然の観察」
(13:30~14:15)
(北海道自然観察協議会 横山 武彦会長)
 - 2) 「観察会はフィールド探しから」(14:15~15:00)
(北海道自然観察協議会 山本 牧指導員)
 - 3) 「十勝の自然観察事情」(15:10~15:40)
(北海道自然観察協議会 中村 修一指導員)
 - 4) 観察部からのお願い(15:40~16:00)
(北海道自然観察協議会観察部長 山形 誠一)

忘年会

- 日 時: 11 月 30 日(土) 17:00~19:00
会 場: 大庄水産 札幌・読売北海道ビル店
会 費: 3,500 円(120 分飲み放題、消費税込)
住 所: 札幌市中央区北 4 条西 4 丁目 1 読売北海道ビル 2F(大丸前)
電 話: 011-231-0502

◎11 月 22 日(金)までにお申し込み願います。講演会のみ参加の方も、連絡をお願いします。
出欠連絡は事務局(池田政明)へ。

TEL/FAX 011-708-6313

Email: ecology@cocoa.ocn.ne.jp



救急救命講習会 2014

日時:2014年1月18日(土)10:00~16:00(昼休み 12:00~13:00)

会場:かでの2-7 610会議室

札幌市中央区2条7丁目 道民活動センタービル ☎011-204-5100

参加費:50円(救急救命小冊子代)

持ち物:三角巾(実習で使用します)、筆記用具、昼食など

1 講習内容

◇午前の部(10:00~12:00)

講師:日本赤十字社北海道支部

内容:ケガと止血・骨折の手当
・その他緊急時の対応等

◇午後の部(13:00~16:00)

講師:(財)札幌市防災協会

内容:AEDの使用法・心肺蘇生法等。

○実習がありますので、当日は動きやすい服装でご参加ください。

2 申し込み方法

氏名、住所、連絡先、修了書番号、
午前・午後・両方の別を記載の上、
FAX・はがき又は、E-mailにて、
事務局 池田まで、お申し込みください。

★申込締切★

2013年12月10日(火)必着!

<申し込み・問合せ>

北海道自然観察協議会

事務局 池田政明

FAX:011-708-6313

E-mail:ecology@cocoa.ocn.ne.jp

救急救命講習会 参加申込書

以下の通り、北海道自然観察協議会の救急救命講習会に申し込みます。

参加申し込み (いずれかに○)	2014年1月18日(土) 1 午前の部(10:00~12:00) 2 午後の部(13:00~16:00) 3 午前・午後の両方
氏名	
住所	
連絡先 (いずれかに○)	電話・FAX・E-mail
修了証番号	

札幌市消防署又は(財)札幌市防災協会の救急救命講習を以前受講した方で修了証をお持ちの方は、修了証の番号のご記入をお願いします。

注:氏名・住所・修了証番号は、(財)札幌市防災協会へ提出する名簿に記載します、ご了承ください。

なお、申込書は恐縮ですが、コピーを取ってご利用ください。



登別のアサギマダラ

登別市 内田 尚志

アサギマダラに出会ったのは何年前のことであっただろうか？

古くは室蘭岳のヒュッテの近くで見たのが最初である。その時初めて、北海道では「迷蝶」とされていることを知った。また最近では、それでも何年も前であるが、登別の自宅庭先で見たことがある。それ以来、玄関の傘立に捕虫網を置くようになったが、アサギマダラに使ったのは1、2回もあっただろうか。



とにかくここ数年はアサギマダラのことなどすっかり忘れていた。それが今年6月上旬、ある人に誘われ鷺別岬に花を見に行ったとき、偶然にもアサギマダラに出会った。網を取りに急いで家に戻り出直したが、時すでに遅し、アサギマダラはもう見当たらなかった。次の日のTVニュースで、九州でマーキングされたアサギマダラが道南・上ノ国町で採取されたことが放映されていた。逃した魚？は大きかったかもしれない。

☆いつもご愛読有難うございます。

編集部では、親しみやすく、読みやすく、さらに為になる会報を目指して発行を続けています。

そのためには、皆様からのご意見、ご要望等を取り入れながら進めるつもりです。

したがって、皆様の忌憚りの無いご意見・ご要望等をお寄せください。

また自然観察指導員として日頃思っていること、取り組んでいることなども是非、お寄せください。

(編集部長)

さらに今年8月上旬、登別温泉・地獄谷の散策路で、ゆっくり飛ぶアサギマダラを見つけ、ノリウツギの花に止まったところを写真に収めた。また、日和山の裏側の「原生野草園」には、ヨツバヒヨドリやハンゴンソウの群落があり、それらの花が咲いている頃であることを思い出し、足を伸ばした。案の定、野草園は淡い朱色や明るい薄黄色で塗り分けられたように埋め尽くされていた。

ナントそこにアサギマダラが飛んでいるではないか！ しかも何頭も！！

こんなにもまとまった数のアサギマダラを見るのは初めてである。2日後、今度は捕虫網を用意して出かけ、マーキングや翅の状態などの確認を行った。見かけたのは全部で5頭。捕獲確認できたのは2頭。何れもオスで、マーキングされたものではなく、翅が大きく傷んでいる様子もなかった。遠くから飛んできたのであれば、少しは翅が傷んでいてもよさそうに思うのだが？ 不思議である。

その後しばらく雨の日がつづいたので、次に「原生野草園」に行ったのは8月下旬であった。しかし、その時はもうアサギマダラは全く見られなかった。地球温暖化が言われている昨今、アサギマダラに来年もまた会えるのであろうか。注意深く見守ってゆきたい。



参加者の声



旭川市 突哨山を訪ねよう (13/9/28)

旭川市 宮津 勉

紅葉にはまだ少し早いですが、好天に恵まれ春のカタクリとは違った景色を見ることができました。花が咲き終わり草木の真っ赤な実など観察しながら「これはツリバナ、これはガマズミ、これは茎がマムシに似ているからマムシ草」など個人で山歩きをすると見過ごしてしまうことを指導員の方の説明を受けることにより新たな発見ができました。木にしがみついたセミの抜けがら、落葉の中から抜き出したキノコ、山は着実に

冬を迎える準備をしていました。谷渡りルートから木漏れ日の路を散策する約2時間のコース。木や草は自分たちの勢力を維持するため激しい生存競争をしているといえます。

この時期活発な活動をする葉は必要なくなり、緑から赤黄に色を変え落下して土に還る、そんな自然の循環を考えながらの観察会でした。夫婦で参加させて頂きありがとうございました。

小樽市 中野植物園(13/10/12)

札幌市 五十嵐 加代子

小樽・中野植物園？ しかも私設、どこに？ どんな植物園なんだろうと思い、バス停まで興味津々でした。

バス停には、指導員の方など4名ほど待っていました。ゆっくり小高い山道を登りました。ちょっと前まで咲き誇っていたアジサイの花が目にとまりました。標高150mの頂上には、観音像があり、あたたかく、優しい笑えみには「よく来ましたね。」とい

う思いが伝わるような気がしました。

途中木々に絡みついたツルや葉を見ながら、これは「山ブドウ」これは「コクワ」と参加者みんなで、子どもの頃によく食べたよね！と言いながら、ちょっぴり味みもさせてもらいました。

当日は朝から雨でしたが、バス停に着き、歩き始めると雨がやみ、青空になり自然観察を楽しむことが出来ました。



ウォッチングプラン

開催予定日	テーマ	観察地	集合場所・時刻・注意事項	交通機関	連絡先
未定 1月中旬	第13回北大構内 冬休雪氷観察 「親子で楽しむ 雪の観察会」	札幌市北区 北海道大学キ ャンパス内	【札幌市教育委員会後援】 北海道大学 クラーク会館前 13:00 集合～15:00 解散（北大 構内は駐車禁止） ※小4以下は保護者同伴。大人 のみの参加も可能 雪の入らない靴（スパッツ付な ど）・替え手袋・帽子 雪の結晶の写真撮影を希望す る人はカメラ	JR札幌駅北口か ら徒歩5分 地下鉄南北線 さ っぽろ駅、北12 条駅から徒歩10 分	須田 節 011-752- 7217
1月12日 (日)	「北大研究林」観 察会 野鳥・冬芽・動物 の足跡の観察	苫小牧市 北大研究林	北大研究林駐車場 10:00 集合～12:00 解散予定	JR苫小牧駅前 バスターミナル 道南バス9:12 発 「01 交通部前行 き」乗車、「美園 4丁目」下車徒歩 30分 無料駐車場有	谷口勇五 郎 0144-73- 8912
2月16日 (日)	「冬の円山公園」 観察会 冬に耐える植物	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バ ス待合所 10:00 集合～12:00 解散	地下鉄東西線 円 山公園駅下車	山形誠一 011-551- 5481
2月23日 (日)	「屯田防風林」観 察会 屯田防風林と、創 成川の水鳥を観 察をしよう！	札幌市北区 屯田防風保健 保安林/創成 川	下水道科学館前駐車場 10:00 集合～12:00 解散 あれば双眼鏡、ルーペ、図鑑な ど・寒くない服装	地下鉄南北線麻 布駅出口2番から 徒歩15分 中央バス札幌タ ーミナル発下水 道科学館前下車 徒歩5分 JR学園都市線 新琴似駅下車徒 歩15分	池田政明 011-708- 6313

会計からのお願い 忘れていませんか 会費の納入を！！

本協議会の活動は、会員の方の会費にて運営されています。会費納入が滞ると、会費を値上げ
するとか活動を縮小するなどしてはなりません。2013年度までの会費の納入がまだ
の方は、同封の振込用紙(払込取扱票)でお願いします。

- ・年度会費は1,500円です。
 - ・未納の方には、金額を入れた振込用紙を同封しています。
 - ・封筒の氏名欄に納入済みの年度までが記載されています。
 - ・既に入金済みの方には、振込用紙を同封しておりません。
 - ・通信欄は、住所変更等などの連絡にお使いください。
 - ・差支えがなければ、メールアドレスや電話番号などを記入願います。
- ※退会の申し出があるまでは、会員です。届出が出されるまでの会費の納入
をしていただきます。郵便振替口座 02710-1-8768



会費振込加入者名 北海道自然観察協議会会計 三澤 英一



・自然観察指導員フォローアップ研修会と忘年会、本文でもご案内していますが、是非、参加願います。特に前者の研修会は、久々に開催するものです。特に新指導員の方々は、極力参加願います。

・本号のトップ報告でも書いています本会の酒井副会長が、故郷に戻るとのこと、このたび退任されることになりました。本会には若い時から入会しており、その意味で大変キャリアがある方で、遅きに失した感がありましたが、前回の役員改選により副会長に就任されたばかりでした。これからその経験と知識

をご発揮されてご活躍を期待されていたところでしたが、退任されることになり、大変、残念です。

幸にも向こうに行かれましても道外会員として残りたいとのこと。大変、有難いことです。彼の地でもご活躍される事を願っております。

・前号の107号に掲載しました「2013 全道研修会報告」の執筆者は酒井 健司氏と記載しておりましたが、北海道自然観察協議会会長 横山 武彦氏の誤りでした。

ここに訂正し、お詫び申し上げます。(KM)



北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768 振込加入者名 北海道自然観察協議会

計 三澤 英一 北広島市松葉町 5 丁目 9-16

TEL 011-372-0745 E-mail qqyn8ppd@space.ocn.ne.jp

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台 3-13-5

TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は 観察部 山形 誠一 札幌市中央区双子山 1 丁目 12-14

TEL/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

退会、住所変更の連絡は 事務局 池田 政明 札幌市北区麻生町 4 丁目 9-16

TEL/Fax 011-708-6313 E-mail ecology@cocoa.oce.ne.jp

事故発生等緊急時は アカ・リスクマネジメント 担当 本間氏 TEL 011-873-2655

投稿や原稿は 編集部長 村元 健治 札幌市手稲区星置 2-8-7-30

TEL 011-694-5907 E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp

表紙写真 森 繁寿



自然観察 2013 年 11 月 15 日/第 108 号 年 4 回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)

発行 北海道自然観察協議会
編集 北海道自然観察協議会編集部